

岡山県子ども・子育て会議 議事概要

(開催要領)

- 1 開催日時：平成28年7月29日(金) 10:00～12:00
- 2 場所：ピュアリティまきび2階「千鳥」
- 3 出席委員名(計12名、敬称略)
糸山 嘉彦、岡本 壯二、梶原 洋一、亀山 誠子、小林佳代子、佐藤 和順
武田 浩一、坪井 綾広、中山 芳一、服部 剛司、山下 芳枝、和田 広志

【議事概要】

<議題>

議題1 「岡山いきいき子どもプラン2015」数値目標の実績報告等について

議題2 県内保育所の現状等について

(柴田子ども未来課長)

資料1及び2に基づき説明

○発言要旨

(委員)

合計特殊出生率について、全国値は0.04ポイント上昇し、経済状況が良くなったからという話も聞くが、岡山県では横ばいとなっている。これをどう分析しているのか。

(柴田子ども未来課長)

現時点では、合計特殊出生率の計算に必要な数値が全て公表されているわけではないので、詳しい要因の分析は難しいが、ざっくりとした分析は進めており、30代の出生数について、全国は伸びているが本県は伸びていないこと、また、20代後半から30代にかけての婚姻数が伸びていないことが分かっている。さらに分析を進めるとともに、市町村ごとの合計特殊出生率に影響を与える社会経済的な背景などについても、国の交付金を活用し、詳細な分析を行いたいと考えている。

(委員)

生みたい女性が生める環境を作っていくことが大前提であり、その結果、合計特殊出生率が上がるのであれば良い。大学生が多い自治体では、大学を卒業したら地元に戻ってしまい、大学生がなかなか定住しないため合計特殊出生率が低くなっているのではないかと分析していた。岡山も大学が多い地域なので、分析に当たってはそういった観点も加えていただきたい。

(委員)

待機児童が全国的な問題となっているが、全体として見ると、岡山市、倉敷市では、公立、私立を合わせると、保育所は足りているのか、足りていないのか。

(柴田子ども未来課長)

岡山市でも、中心部以外では空いているが、中心部では希望しても入れないという状況があり、平均すると資料の充足率となるが、地域によってかなり偏りがある。

(委員)

県北の私立の保育所で魅力がないところ、力がないところはどんどん淘汰される一方で、岡山市などはいつまで経っても保育所が足りないということになるのではないかと心配している。市町村から上がってきた要望について、県としてどういった指導を行うつもりか。

(事務局)

待機児童が発生している4市町については、市町において、施設整備や、地域型保育など小規模の施設補充などを計画されているので、県としても積極的に支援してまいりたい。また、定員割れしているとはいっても、県としては出生数増を目指していきたいと考えており、県北の保育所がなくなっていいとはもちろん考えていない。

結婚される年齢がどんどん遅くなっているため、出産も高齢化し、数も減っているという傾向がある。都市部での要因、中山間地域など過疎化が進みつつあるところでの要因など、細かな分析も行いながら、できるだけ早い年齢で結婚していただき、出産も早い年齢でしていただいて、第1子、2子、3子と生んでいただけるような施策を重点的に進めていかなければいけないと考えている。

(委員)

資料1のP3の2の「岡山いきいき子どもプラン2015」の数値目標の実績報告等について、例えば、子育て短期支援事業実施か所数については、箇所数だけでなく、事業の利用状況を、子どもの貧困に関する指標の状況については、児童養護施設の子どもの高等学校卒業後の進学率など、割合数値だけではなく、対象人員の実数も説明してほしい。また、資料2のP3の待機児童数について、年齢別の割合を教えてください。

(事務局)

岡山市の待機児童数についてであるが、0歳児48名、1歳児283名、2歳児150名、3歳児155名、4歳児以上93名である。(子育て短期支援事業の利用状況、児童養護施設の子どもの高等学校卒業後の進学率の対象人員の実数については、後日郵送で回答。)

(委員)

もっこカードの協賛店舗について、協賛していることを掲げていない店舗もあり、使えるかどうかこちらから聞いたり、県のホームページで調べたりしなければいけないなど、ちょっと使いづらい。また、子どもが3人いるので、多子用のカードをもらったが、何か違いがあるのか。

(事務局)

今年4月から開始された子育て支援パスポートの全国共通展開に合わせて、店舗入り口等に目印となるよう貼っていただくステッカーを作成し、全店舗に送付した。また、ポータルサイト「おかやま はぐくま〜れ」では、協賛店舗を検索しやすいように改修を行ったところであり、利用者の利便性を向上させ、利用率を上げていきたいと考えている。多子世帯の優遇制度は、多子世帯優遇店舗において、ポイントアップサービスなど付加的なサービスを受けられるカードとなっている。

(委員)

待機児童について、兄弟で違う保育所に決められ、仕方なくそこに通わせているという方がいた。上の兄弟がいる保育所に入れるような融通は利かせられないのか。

また、障害児と関わることが多い仕事に従事しているが、保育所、幼稚園とも、障害児が増えていることにより保育士などの人数を増やさなければいけないが、保育士の人数が増えないから、定員が増えないといったことは関係あるのか。

(事務局)

兄弟で同じ保育所に入れるよう利用調査の段階で加点は行っているが、希望する保育所に空きがあって初めて利用調整が図れるものであり、保育所への入所を希望される子どもが多い状況の中、なかなか同じ保育所に入れないといったことも起きている。

障害児については、障害児2人について保育士1人という配置になるが、財政的な措置があっても、現実としては保育士が足りないという声もあるが、保育所ごとに実情は異なっている。

(委員)

県が早く結婚しなさいということあまり先頭に立って言うと、女性の今後の人生にも関わってくる。婚姻率を高めるのはいいが、合計特殊出生率を目標値にするかどうかについては子ども・子育て会議の場でもすごく議論があったかと思うが、目標値を定めると子どもを生まない女性が悪いのかといったイメージをもたらすのではないかということが危惧される。こういった女性の意見があるということもしっかり配慮していただきたい。

(委員)

事業所内保育所の取組はあるのか。また、岡山県には大学が多いという話も出たが、大学内の保育施設の取組の状況はどうなっているのか。

(事務局)

資料2のP11に掲載している事業所は、市町村が認可して、地域型保育給付の対象となっている施設である。これ以外にも無認可の事業所内保育所で、従業員の子どもを預かっている施設はかなりある。

(委員)

資料2のP7で、公立、私立の幼稚園の定員に対して半分の在籍数となっているが、県として何か取り組むつもりなのか。

(事務局)

幼稚園の持っている施設や人的資源を活用して、例えば一時保育とか、保育園の機能を兼ね備えた認定こども園へとといった展開など、各市町村で検討されているかと思う。定員割れしているから、県として何か取り組むといった方針はない。

(委員)

一般的には奨学金を利用している大学生は50%を超えており、また、非正規が4割を超えており、雇用情勢も厳しい。奨学金をもらって卒業した学生は、数百万円を返していかなければいけない。結婚を考えたくても全く先が見えず、当事者が置かれている状況は本当に厳しい。

保育所や子ども園を増やすことも大切だが、保育士の給料が全業種と比べると圧倒的に安い。現場ですごく苦勞されている方がいるという認識を持っていないと間違えてしまうし、うまくいかないのではないかと思う

(事務局)

当事者の立場に立った施策を考えることが重要であるとあらためて認識している。結婚を希望している方がそれぞれの状況の中で障壁があると思うが、例えば適当な相手に巡りあえないとか、ちょっとした支援で結婚に踏み切れる、県としてはそういったところを支援していきたいと考えている。

保育士の就業状況については、一人一人の給与ベースは一気には上がらない状態だが、少しずつでも給与ベースを上げていくとか、国の方も本気で考えているので、県もそれに歩調を合わせていきたい。また、職場環境についても改善をしていかなければいけないので、行政としてもそういった声を集めて、少しずつでも改善を図ってきたいと考えている。

(委員)

早く結婚しようとか、カップルを増やそうとか、そういったことも考え方の一つとしてあると思うが、もっと多様なカップリングを認めていこうという県のスタンスがあってもいいのではないか。フランスは事実婚で出生率が上がったというのは有名な話だが、岡山県は事実婚を受け入れますよとか、結婚というものにとらわれるのではなく、多様なカップリングにも目を向けてもいいのではないか。

保育士の給料問題について、例えば応能負担のステージをもう一つ設けて保育所そのものの収入源を確保してもいいのではないか。

また、保育士の給料問題も切実だが、離職率が高くなる理由のもう一つは人間関係であり、もっと積極的に男性保育士を受け入れていく、労働条件の確立も併せてやっていくということができたらいいのではないかと思う。

(委員)

岡山県は、人口比でいうと、保育士養成校が一番多い県だと思うので、就労継続できるような環境を整える方策等もぜひ考えていただきたい。

<議題>

議題3 その他

「新晴れの国おかやま生き生きプラン（仮称）骨子」

(柴田子ども未来課長)

資料3に基づき説明

(委員)

子育てについて、自分から情報を取りに行かなければいけないと感じている。最近、支援センターのことを知ったり、児童館も名前は聞いていたが、行く一歩が踏み出せなかったりといったことがあるので、県からのお知らせ以外で、何かそういった情報をPRできるものがあつたらいいのではないか。

資料1のP3の「2「岡山いきいき子どもプラン2015」数値目標の実績報告」のうち、「1歳6か月児の健康診査受診率」があるが、5%くらいの方が受診していないのはなぜか、またどういった対応をするのか。31年度の目標がなぜ100%でないのか。

(柴田子ども未来課長)

情報を自分から取りに行かなければいけないというご指摘については、情報発信がまだまだ十分ではないのかなと感じており、県、市町村とも色々な機会をとらえて、もっと子育て支援策を情報発信していかなければいけないと考えている。

1歳6か月検診の未受診者に対しては、市町村において、あらためて通知したり、電話や家庭訪問をしたりといった対応をされている。なぜ目標が100%でないのかと

いう点については、わざわざ会場まで来て受診できる方ばかりではないと思われるので、そういったことも考慮しているのではないかと考える。

(委員)

新晴れの国おかやま生き生きプランと、おかやま創生総合戦略との関係は。

(柴田子ども未来課長)

総合戦略は、国全体の取組として地方創生を謳う中、全国の自治体が出したもので、主に人口減少とか、活力維持といったところを目標に策定した戦略である。一方、生き生きプランは県の総合計画という位置付けであり、総合戦略と整合性を図りながら、策定作業を進めていく。

(委員)

県が素晴らしいプランを出されるが、一番大切な地域の人々に、県の思いがちゃんと伝わっているのかなということを常々感じている。例えば今回のプランについては、県からはどのように情報提供するのか。

(柴田子ども未来課長)

市町村としっかり情報を共有するというのは重要な観点であり、会議を開催したり、資料を提供したり、しっかりと情報共有を図ってまいりたい。

(委員)

いきいき子どもプランの数値目標の実績報告があったが、何パーセントとか何箇所というのは非常に分かりやすく、クリアしやすいのだと思う。でも逆に、兄弟で同じ保育所に入れないとした場合、別々の保育所でも入れれば待機児童数は減るわけだが、量をクリアできたとしても次に質をどう担保していくのかということが問題で、これはこの会議の大事な任務だと思うので、委員の皆様方に引き続きご審議をいただきたいと思っている。

以上